

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	MORITO日中翻訳・通訳プログラムの開講と実践状況について
Author(s)	松山, 由布子
Citation	広島大学留学生教育 , 26 : 78 - 85
Issue Date	2022-09-30
DOI	
Self DOI	10.15027/53191
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053191
Right	
Relation	



MORITO 日中翻訳・通訳プログラムの開講と実践状況について

松山由布子

はじめに

広島大学森戸国際高等教育学院では、MORITO 日中翻訳・通訳プログラムを実施している。このプログラムは、広島大学の大学院博士課程の学生のうち、日本語と中国語を上級レベルで身につけている日本語および中国語の母語話者を対象に、高度に専門的な翻訳・通訳の技術を身につけるための特別プログラムである。

このプログラムは、コロナ禍中の 2020 年後期より基幹科目の授業が開始され、2021 年 4 月に開講式が行われた。それから歳月を経て、2022 年 9 月に最初のプログラム修了者を送り出すこととなった。これを機会として、プログラムの概要、開講から今日までの実施状況、受講生を対象としたアンケートの結果などを報告する。本稿を通して、プログラムの意義と実践状況を改めて確認すると共に、森戸国際高等教育学院の言語・文化教育における本プログラムの展望を示す。

MORITO 日中翻訳・通訳プログラムの概要

MORITO 日中翻訳・通訳プログラムは、森戸国際高等教育学院が独自に実施する大学院特別プログラムである。日本語と中国語の双方を上級レベルで修得している広島大学の大学院博士課程の学生が、日中間の言語の差異や社会・文化的背景を深く理解した上で、日本語—中国語間の翻訳や通訳の技能を身につけることを目的としている。プログラムの対象は博士前期課程の学生であるが、博士後期課程の学生の受講も認められている。各学生が所属する研究科の修了課程と併せて学ぶものであり、高度な言語運用能力を身につけるための教育プログラムを提供すると共に、現代社会における日中交流の懸け橋となる人材の育成を目指している。また受講に際して、中国語の母語話者は、日本語能力試験 (JLPT) の N1、日本語の母語話者は、中国語検定試験の 1 級または HSK の 6 級に相当する言語能力を有することを条件としている。

学生募集は、毎年 2 回、4 月と 10 月に行っており、原則として博士前期課程の 2 年間にプログラムを修了することとしている。また森戸国際高等教育学院の実施するプレースメントテストの受験生の中で、レベル 5 と判定された中国語母語話者の学生には、特に案内を送付している。

プログラムの修了要件は、所定の認定科目の中から 14 単位 (基幹科目 8 単位、選択科

目6単位)以上を取得することである。本プログラムの2022年4月時点の認定科目は、巻末表「MORITO 日中翻訳・通訳プログラムの認定科目」の通りである。基幹科目には現在7科目が設定され、このうち「日中翻訳特別演習Ⅰ」「同Ⅱ」「日中通訳特別演習Ⅰ」「同Ⅱ」の4科目が、毎ターム1科目ずつ開講されている。また「日中対照言語学」「日中対照文化論」「日中通訳翻訳特講」は、次年度以降の開講を予定している。選択科目は、日中の言語や社会・文化に関わる科目であり、現在12科目を開講している。開講部局は、7科目が森戸国際高等教育学院、5科目が大学院人間社会科学研究科(人文学プログラム2科目、人間総合科学プログラム1科目、国際教育開発プログラム2科目)である。森戸国際高等教育学院の科目は、広島大学の大学院生であれば、プログラムの受講生以外も受講することができる。また本プログラムに申し込むよりも前に認定科目の単位を取得していた場合は、プログラムの修了単位として認定される。修了要件を満たした受講生には、プログラム修了証書が授与される。

プログラム開講の経緯と現在までの歩み

本プログラムは、2020年度より「日中翻訳特別演習Ⅱ」と「日中通訳特別演習Ⅱ」が開講され、2021年4月9日(金)には、プログラム開講式がオンラインにて挙行された。コロナ禍中における新規プログラムの開設は、科目の設定やオンライン授業体制の確立、学生募集などにおいて大いに難航した。しかし2021年の第3タームからは、1タームのみ開講する選択科目の数を増やすなど、学生の履修環境に配慮しながら、プログラム内容の充実をはかっている。

これまでの受講生の申し込み時期と人数、所属先は【表1】の通りである。



MORITO 日中翻訳通訳プログラム開講式の様子
広島大学 HP より転載 (掲載日 : 2021 年 04 月 12 日)

【表 1】 MORITO 日中翻訳・通訳プログラム受講生の申し込み時期と所属の内訳

(人)

	人間社会科学研究所			先進理工系科学 研究所	総合科学 研究所	合計
	人文学 プログラム	法学・政治学 プログラム	人間総合科学 プログラム	情報科学 プログラム		
2021 年 春季	2	2	2	1	1	8
2021 年 秋季	1	2	0	0	0	3
2022 年 春季	0	2	0	0	0	2
修了前 卒業	▲ 1	0	▲ 1	▲ 1	0	▲ 3
合 計	2	6	1	0	1	10

現在の受講生は、全員が中国語を母語とする大学院留学生である。人間社会科学研究所（人文学プログラム、法学・政治学プログラム・人間総合科学プログラム）の学生が9名、総合科学研究所の学生が1名参加している。人間社会科学研究所に所属する学生が多く、特に法学・政治学プログラムに所属する学生の応募が毎年あることから、分野として需要のあることが推察される。またプログラム修了前に大学院を修了した学生が3名いる。

受講生アンケートの結果とその考察

受講生には、これまで2021年第4ターム（T4）、2022年第2ターム（T2）の二度にわたり、本プログラムのアンケートを実施した。1回目は全11名中11名、2回目は全10名中9名の回答を得た。なおアンケートは全受講生を対象としており、回答者は重複している。アンケートの項目と結果、各選択肢が選ばれた割合は以下の通りである。

問1 プログラムの受講目的を選択してください。（複数回答可）

選択肢	2021 T4		2022 T2	
	人数	割合	人数	割合
1 翻訳・通訳の技術を磨くため	11	100%	8	89%
2 日中比較文化への理解を深めるため	8	73%	7	78%
3 日本文化への理解を深めるため	9	82%	6	67%
4 就職に活かすため	4	36%	5	56%
5 研究に活かすため	3	27%	4	44%
6 留学生生活を豊かにするため	7	64%	7	78%
7 新しい知見を得るため	5	45%	7	78%

問1ではプログラムの受講目的を確認した。複数回答が可能な設問である。「1 翻訳・通訳の技術を磨くため」は、1回目・2回目共にほぼ全員が選択した。一方、「4 就職に活かすため」「5 研究に活かすため」を選択した学生は、1回目は半数以下、2回目は約半数である。そして「2 日中比較文化への理解を深めるため」「3 日本文化への理解を深めるため」「6 留学生生活を豊かにするため」を選択した学生は多い傾向にある。2回目では「7 新しい知見を得るため」を選択した学生も多い。こうしたことから、将来の仕事や専門分野の研究に生かすことをプログラム受講の目的とする学生は全体の約半数であり、留学生活の中で日本文化や日中間の文化比較に興味を持ち、新しい知見を得ることを目的に本プログラムを受講している学生が多数を占めていると言える。

問2 開講授業は受講目的に合致していますか。

選択肢	2021 T4		2022 T2	
	人数	割合	人数	割合
1 合致している	6	55%	5	56%
2 やや合致している	5	45%	3	33%
3 どちらともいえない	0	-	1	11%
4 あまり合致していない	0	-	0	-
5 全く合致していない	0	-	0	-

問3 問2の選択理由を簡潔に記述してください。(任意回答)

<p>【2021 T4】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの授業で色々勉強しました。よかったですと思います。 翻訳・通訳の技術を磨いた。 授業を通じ、日本人の考え方がより理解できます。 履修した各授業で日本語能力を磨いてきてよかったですと思っています。 日本語の文法はちょっと上達しました。 今まで履修した科目で自分の日本語力が鍛えられたと思いますが、基幹科目の履修の授業数がちょっと少ないので、なかなか8単位をもらえなくなりました。
<p>【2022 T2】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな翻訳に関する骨が学べ、日本語の表現をより深く理解することができる。 このプログラムの授業を通して、日本語の翻訳の勉強だけではなく、日本文化や、言語学や、また中国人の自分が知らない一面を学ぶことができるのは非常に楽しい。

問2と問3では、本プログラムの内容が受講目的と合致しているかどうかを確認した。

1回目・2回目共に、「4 あまり合致していない」「5 全く合致していない」を選択する学生はおらず、現行のプログラムは概ね学生の受講目的に合致しているようである。また問2の選択理由を尋ねた問3では、翻訳・通訳技術に焦点を当てる中での日本語能力の向上を実感した学生が多くいること、また問1にて多くの学生が興味・関心を持っていることが示された日本文化や日中間の文化比較について、希望通り学ぶことができた実感している学生が多くいることが分かった。ただし、学習への手ごたえは感じているものの、基幹科目8単位を取得することに大変さを感じている学生がいることも分かる。

問4 プログラムの満足度を5段階で評価してください。

選択肢	2021 T4		2022 T2	
1 大変満足している	3	27%	2	22%
2 満足している	7	64%	5	56%
3 どちらともいえない	1	9%	2	22%
4 やや不満である	0	-	0	-
5 不満である	0	-	0	-

問5 問4を選択した理由を、簡潔に記述してください。(任意回答)

<p>【2021 T4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が面白いと思います。 ・先生方々の授業は非常に面白いと思います。
<p>【2022 T2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな知識を勉強になり、日本語の能力も上げられるし、視野も広がる。 ・特に問題がありませんが、3・4タームに基幹部分の残された4単位をうまく取れるのかについて、ちょっと心配しています。

問4と問5では、プログラムの満足度を確認した。「1 大変満足している」または「2 満足している」を選択した学生は、1回目は約9割、2回目は約8割であり、1回目・2回目共に「4 やや不満である」「5 不満である」を選択した学生はいなかった。また問4の選択理由を尋ねた問5では、授業の内容が面白いことや、知識を身に付けながら自身の日本語能力を向上させることができたことなどが挙げられている。本プログラムは、全体的には受講生にとって満足いくプログラムとなっているようである。ただし、「3 どちらともいえない」を回答する学生が、1回目は1名、2回目は2名おり、基幹科目の受講に対する不安も再度寄せられている。

問2・問3と問4・問5の回答を連動させると、本プログラムの内容は、学生達の受講目的に合致しており、授業内容についても高く評価されているが、現在のところ毎ターム1講義のみ開講されている基幹科目の単位を在学期間中に取得しなければならないことに、困難さや不安を感じている学生がいる状況であると言える。

問6 プログラムのより良い運営のために、ご意見があれば記述してください。

(任意回答)

【2021 T4】
・より多く選択できる授業を開講しているようによろしくお願いいたします。
【2022 T2】
・やはり、対面の授業を参加したいと思い、現場で先生と話し合うのは楽しいと思う。

問6では、本プログラムの運営についての意見を求めた。認定科目数の増加、対面授業の実施、という2つの要望が寄せられた。

これまでの授業方法については、担当教員や受講生の中に来日できない環境にある者がいたことから、基幹科目はすべてオンラインにて開講する、選択科目は担当教員が広島大学の指針に沿って各自で決定する、という状況であった。問1の通り、留學生活の充実をプログラムの受講目的とする学生が多くいることを鑑みれば、来日できた学生から対面授業を希望する声上がることも理解できる。こうした意見を認識した上で、授業方法については、今後も広島大学の指針に沿いながら、慎重に検討していく必要がある。

問7 本プログラムを周囲に勧めたいですか。

選択肢	2021 T4		2022 T2	
	人数	割合	人数	割合
1 ぜひ勧めたい	1	9%	3	33%
2 興味を持つ人がいれば勧めたい	10	91%	5	56%
3 どちらともいえない	0	-	1	11%
4 勧めたいとは思わない	0	-	0	-

問7では、プログラムを周囲に勧めたいかどうかについて、意見を求めた。1回目・2回目共に、ほとんどの学生が「1 ぜひ勧めたい」または「2 興味を持つ人がいれば勧めたい」を選択しており、問4と同様に、受講生のプログラムへの満足度の高さが窺われる。

問8 本プログラムの受講に関して、問題が生じている場合は記述してください。

(任意回答)

【2021 T4】

- ・私は2020年後期に日中翻訳演習と通訳演習を履修しましたが、「単位不要」という形になってしまいました。気づいた時、今年後期の同科目を登録することが間に合わなかったです。
- ・実践の経験があればいいなあと思っています。

問8では、プログラム受講に際して生じている問題について尋ねた。単位登録不備に関する問題の報告、翻訳・通訳の技術を身につけるためにより実践的な授業を要望する意見が寄せられた。単位登録不備の問題は2名の学生に対して起こっており、問題となった授業が当初の担当とは異なる代理教員によって行われたことに起因するものであった。2名の学生は共に単位認定に値する成績を収めていたことから、森戸国際高等教育学院教員会議にて、単位の取得を認定することが承認された。

繰り返しになるが、今回の授業アンケートを通して、本プログラムが受講生にとって満足度の高いものとなっていることが確認できたと同時に、在学期間中の基幹科目の単位取得に不安と困難を感じている学生がいることも分かった。学生からは、認定科目数を増やすこと、翻訳・通訳の技術に関わる実践的な授業の開講、対面授業の実施などの要望が寄せられた。こうしたアンケートの結果や学生からの要望を教員間で共有し、今後のプログラム運営に活かしていく。

おわりに

ここまで、MORITO 日中翻訳・通訳プログラムの、開講から現代に至るまでの状況をまとめて報告した。また過去2回の学生アンケートの結果を分析し、受講生の要望やプログラムの問題についても確認した。

本プログラムは、森戸国際高等教育学院の独自の特別プログラムとして、段階的なコース設定がなされてきた。そのため現在のところ、プレースメントテストの受験生を中心に、小規模に行われている。今後本プログラムを全学へ広げていくためには、現在予定されているすべての基幹科目を開講した上で、認定科目数を増加し、学生の授業選択の可能性を増やしていく必要があるだろう。特に人間社会科学研究科法学・政治学プログラムの学生が多く参加している状況から、専門分野としての翻訳・通訳技術へのニーズがあると推察される。こうしたことをふまえて、プログラム内容を改善していく必要がある。

今回、プログラムの開始から約二年を経て、はじめて修了者を輩出することとなった。今後も多くの受講生を、プログラム修了に導くことができるように実践していく。

MORITO 日中翻訳・通訳プログラムの認定科目 (2022 年 9 月現在)

区分	科目名	担当者	単位	開講部局
基幹	・ 日中翻訳特別演習 I	サリー・チャン (2021 年度) 陳 斐寧 (2022 年度)	2	森戸国際高等教育学院
	・ 日中翻訳特別演習 II		2	
	・ 日中通訳特別演習 I		2	
	・ 日中通訳特別演習 II		2	
	・ 日中対照言語学	※ 開講予定	2	
	・ 日中対照文化論		2	
・ 日中通訳翻訳特講 (オムニバス)	2			
選択	・ 比較日本文化学研究 A	李 麗	2	人文学プログラム
	・ 表象文化論講義 B	李 麗	2	
	・ アジア文化論 (伝統文化)	荒見 泰史	2	人間総合科学プログラム
	・ 民族言語文化論	佐藤 暢治	2	国際教育開発プログラム
	・ Education for Ethno-Languages (民族言語教育論)	佐藤 暢治	2	
	・ 日中対照表現論	佐藤 暢治	2	森戸国際高等教育学院
	・ 日本語表現特別演習 I	柳本 大地	1	
	・ 日本語表現特別演習 II	柳本 大地	1	
	・ 日本文学基礎演習	松山 由布子	1	
	・ 日本文化概論	松山 由布子	1	
・ 日本近代文学特別演習	フェレイロ・ダマソ	1		
・ 日本現代文学特別演習	フェレイロ・ダマソ	1		